

平成30年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）取組実績

機関・団体等の名称

広島建設青年交流会

事業等の名称	広島県内建設業界を知ってもらう説明会								
1. 実施時期	<p>平成30年6月7日 県立広島工業高等学校</p> <p>平成30年6月11日 呉工業高等専門学校（4年生対象）</p> <p>平成30年6月14日 県立西条農業高等学校</p> <p>平成30年9月26日 呉工業高等専門学校（2年生対象）</p> <p>平成30年11月28日 広島工業大学専門学校</p>								
2. 実施場所 (上記に記載)									
3. 対象者（参加見込又は参加者数）	<table> <tr> <td>県立広島工業高等学校 土木科3年生</td> <td>約40名</td> </tr> <tr> <td>呉工業高等専門学校 環境都市工学科4年生</td> <td>約40名</td> </tr> <tr> <td>県立西条農業高等学校 緑地土木科1・2年生</td> <td>約80名</td> </tr> <tr> <td>広島工業大学専門学校 土木工学科1年生</td> <td>約20名</td> </tr> </table>	県立広島工業高等学校 土木科3年生	約40名	呉工業高等専門学校 環境都市工学科4年生	約40名	県立西条農業高等学校 緑地土木科1・2年生	約80名	広島工業大学専門学校 土木工学科1年生	約20名
県立広島工業高等学校 土木科3年生	約40名								
呉工業高等専門学校 環境都市工学科4年生	約40名								
県立西条農業高等学校 緑地土木科1・2年生	約80名								
広島工業大学専門学校 土木工学科1年生	約20名								
4. 共催・単独等の開催状況	広島県、（一社）広島県測量設計業協会、（一社）広島県建設工業協会、広島建設青年交流会による共催								
5. 事業等の内容	「県内の建設業界への就職希望者の増加を図ること」を目的として、県内の土木系学科を有する高校、専門学校、高専において、建設業の地域貢献、やりがい等について講義を行いました。2部構成で、第1部は、広島県土木建築局建設産業課、広島県測量設計業協会、広島建設青年交流会が、それぞれ行政、コンサルタント、建設業者の立場から、社会資本整備の状況や業界の魅力について、スライドを用いて説明を行いました。また、本事業のために作製したPR動画を視聴してもらいました。第2部は、それぞれの学校の卒業生や若手技術者による意見交換会を実施しました。								
6. 期待される効果（実施結果：効果）	土木に関わるそれぞれの立場から社会的役割や仕事のやりがいなどを直接伝えることで、土木の仕事を知ってもらうことができました。卒業生や若手技								

術者にも参加してもらうことで、より身近に感じてもらうことができました。平成 27 年度から本事業を始めて 4 年目になりますが、この学校訪問を通じて就職先を決めた学生もあり、入職支援に効果があると考えられます。また、テレビ取材もあり、メディアを通じて土木業界への入職促進活動を行っていることも社会全般に広く知ってもらうことができました。

7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案

専門を専攻している学生については既に土木に関心があるため、これまでの学校は継続した上で、普通科や専門外の学校にも広げていく必要があります。また、学生のみではなく、就職の際に影響力がある親へ業界の PR をしていく必要もあります。広島県など行政機関と連携して、県立大学に土木科を創設したり、また、地元建設業界に就職すれば授業料免除にするなど、政策的に土木業界への入職支援をできれば、より大きな効果が得られると考えられます。

8. その他

注 1：提出資料は電子データとしてください。

注 2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。

平成 30 年 6 月 7 日 広島県内建設業界を知ってもらう説明会（県工）開催

場所：県立広島工業高等学校

本事業も 4 年目に入りました、今年の第一弾は県立広島工業高等学校土木科三年生の皆さんを対象に実施しました。昨年に引き続き、この事業のために撮影した業界 PR 動画を視聴してもらいました。その後は各説明及び若手技術者（県工卒業生）との意見交換会を行いました。生徒の皆さんより様々な質問をしていただき、将来への関心の高さを感じました。更に TV 局よりの取材もあり、当日の説明会内容が県内で放送されました。



県工で建設業界説明会
担い手確保へ、魅力伝える
—— 広島県と業界団体ら ——

建設業の担い手不足解消を図るため、広島県と業界団体とが連携して開いている学生向け説明会が 7 日、県立広島工業高等学校で開かれ、進路選択を控える土木科 3 年生約 40 人に対して「街をつくり、守る」建設業の役割や魅力を伝えた。11 日には県工業高等専門学校、14 日には県立西条農業高等学校でも開き、秋頃には県北部、東部での開催も予定している。

参加したのは、広島県の担当者ほか、広島建設青年交流会（一社）広島県建設工業協会（一社）の幹部など約 30 人。説明会では、広島県土木建築局建設産業課の坂本純スウネ主事が県内の社会資本整備状況や建設業の役割について紹介したほか、（一社）広島県測量設計業協会の荒谷悦朗理事（荒谷建設コンサルタント）は、測量設計業の魅力や求める人材、労働環境、福利厚生等について説明し、「大事な人間と向き合っていく」と、皆



生徒の質問に答える O B R

また、後半では、土木科出身で現在業界で活躍する長本雄之介氏（宮川興業）、竹廣龍斗氏（沼田建設）、村山貴洋氏（明伸建設）、井上慎氏（広島県土木建設）の 4 名が、学生との意見交換も企画し、学生との交流も行った。また、土木科出身で現在業界で活躍する長本雄之介氏（宮川興業）、竹廣龍斗氏（沼田建設）、村山貴洋氏（明伸建設）、井上慎氏（広島県土木建設）の 4 名が、学生との意見交換も企画し、学生との交流も行った。

「場がある」と力説。広島建設青年交流会の高橋章文監事（宮川興業）は、荒谷氏と同様に建設業の魅力、やりがいについて述べ、大企業から転職した自身の経験をもち「中小企業だからできることも多い。地元で働きたい人はぜひ志望してほしい」とエール。他産業と比較して高い傾向にある平均賃金や、連休や日制等で改善されつつある労働環境にも触れ、地元建設業への就職をアピールした。

県内建設業の就職希望者増加を目的に始まった説明会も今年で 4 年目。学生の反応も少しずつ良くなり、企業の採用意欲向上、学校側との信頼関係構築にもつながるなど、徐々にではあるが理解が深まりつつある。坂本主事は「業界全体の魅力発信、イメージアップとなり、少しでも入職者が増えてもらえば」と期待。広島建設青年交流会の伏見光晴会長（伏光組）は、「担い手不足が業界の一番の課題。20 年、30 年後の将来を担う彼らにぜひ建設業を志していただきたい」と話していた。

平成 30 年 6 月 11 日 広島県内建設業界を知ってもらう説明会（呉高専）開催

場所：呉工業高等専門学校

第二弾は呉工業高等専門学校環境都市工学科四年生の皆さんを対象に実施しました。前回と同様にまず業界PR動画の視聴してもらい、各説明のあと若手技術者との意見交換へ移行。専門の回答内容を熱心に聞いておられました。



呉高専で建設業の魅力発信 新3Kの取り組みなどPR —— 広島県と業界団体 ——

県内建設業界への就職希望者増加のため、広島県が業界団体と連携して実施している学生向け説明会が11日、呉工業高等専門学校で開かれ、進路選択を控える環境都市工学科4年生の生徒に対し、建設業の地域貢献ややりがいを強調。後半の意見交換では、業界で働くOBが「なぜ今の会社を選んだか」など学生との疑問に答えた。

業界からは、県の担当者のほか、広島建設青年交流会（社）広島県建設工業協会（社）広島県測量設計業協会の幹部ら約30人が参加した。県の講師として登壇した県土木建築局建設課の坂本純一（ジュンイチ）氏は、県内の社会資本整備状況や業界の役割を説明し、「関心をもっていただき、就職先や進学先を決める参考にしてください」と述べたほか、「（社）広島県測量設計業協会の荒谷祐輔（ユウスケ）理事（荒谷建設コンサルタント）は、学生にはあまり馴染みのない建設関連の仕事内容や役割を丁寧に説明した。また、建設業の地域貢献ややりがいを強調。後半の意見交換では、業界で働くOBが「なぜ今の会社を選んだか」など学生との疑問に答えた。

建設業の魅力や現場監督の仕事内容に加え、現在の建設業が過去の3Kから脱却して「給与」「休暇」「希望」の新3Kに取り組みしていることなどを紹介し、「地元で働きたい人には特におすすめです。若い人が入ると良い緊張感が生まれるので、ぜひ入ってほしい」と呼びかけた。

また、意見交換では、若手技術者として県内建設業で働く西川智之氏（チカノチカノ）（砂原組）、滝口勝允氏（カチノカチノ）（久米建設）、瀧本悠太氏（ユウタ）（ケイ・エム調査設計）、鹿瀬一氏（カシノカシノ）（中電技）とメンターセッションを行った。坂上美穂氏（ミホ）（広島県）が

「なぜ今の会社を選んだか」「入ってよかったこと」「きっかけ」など、学生との質問に回答。経験が大事な業界、若いころに入るの、良いし、速回りしたこともその経験が糧となるなど、メンターセッションを送った。

同様の説明会は、今年で4年目。7日には県立広島工業高校が開いたほか、14日には西条農業高校、秋ひろには東部、東部での開催も予定するが、呉高専の学生は土木系学科の高校生と比べると進学や公務員等を選択しやすく、地元企業には集まりにくい傾向にあるという。

広島建設青年交流会の前川拓也（タクヤ）副会長（栗本）は、「第2、第3の進路として、建設業をきつかけ、地域の建設業に少しでも興味を持ってもらえれば」と話していた。

建設業の魅力を語る沼田氏

平成30年6月14日 広島県内建設業界を知ってもらう説明会（西農）開催

場所：広島県立西条農業高等学校

第三弾の説明会は東広島市の広島県立西条農業高等学校で実施。今年も昨年に引き続き、早い時期から進路先として建設業を意識していただくために緑地土木科一年生・二年生を対象としました。先輩のユーモアも交えた生の声を聞き、数多くの質問が集まり、建設業への関心の高さがうかがえました。



平成30年9月26日 広島県内建設業界を知ってもらう説明会（呉高专：2回目）開催

場所：呉工業高等専門学校

第四弾は、6月に1度開催させていただいた呉工業高等専門学校にて、環境都市工学科の二年生の皆さんを対象に実施しました。こちらの学校では例年四年生を対象に説明会を開催させて頂いていますが、もう少し早い段階で建設業に関心を持ってもらえたらと、二年生を対象に2度目の開催をさせていただきました。若手技術者との意見交換では、現役女性技術者も登壇し、建設業の現状をお伝えしました。



(別添様式1)

平成30年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）取組実績

機関・団体等の名称

広島建設青年交流会

事業等の名称	ひろしま建設フェア 2018
1. 実施時期	平成30年10月6日
2. 実施場所	広島県庁正面駐車場
3. 対象者（参加見込又は参加者数）	一般来場者（小中学生や家族連れなど） フェア全体 約4,000人 出展ブース 約517人 (うち子ども約276人)
4. 共催・単独等の開催状況	【主催】広島県、(一社)広島県建設工業協会、広島県建設業協会連合会、建設産業専門団体中国地区連合会 【協賛】公益財団法人建設業福祉共済団、西日本建設業保証株式会社 【協力】中国建設躯体工業連合会、協同組合中国建設専門工事業協会、一般社団法人日本左官業組合連合会 中国ブロック会 【後援】広島市、広島県教育委員会、広島市教育委員会 【出展】広島建設青年交流会、(一社)広島県測量設計業協会、広島県生コンクリート工業組合、呉工業高等専門学校、他
5. 事業等の内容	建設産業の将来の担い手候補である小中学生等の次世代への魅力発信を図るため、業界団体と連携し、建設フェアを開催しました。建設フェア全体としては、建設重機シミュレーター、建設重機の展示・試乗、ロープ1本で自分の体を持ち上げる滑車体験、VRによる足場体験、ドロ団子の製作、壁塗り体験、ドローンフライトシミュレーター体験、ダ・ヴィンチの橋づくり、コンクリートでキャンドルスタンドづくり、ミキサー車で遊ぶ体験、などの出展を行いました。 当会では、おもちゃのショベルによるスーパーボールすくいゲームを行うキッズ体験ブースを出展しました。すくったスーパーボールは、数量を限定してお持ち帰りして頂きました。また、当日登録して頂いた方の中から抽選でおもちゃのショベルカーを進呈しました。

6. 期待される効果（実施結果：効果）

約 4,000 人の親子連れ、家族連れの来場者があり、非常に多くの一般の方に参加して頂き、建設業について広く知ってもらうことができました。建設業界に関わる多岐に渡る分野の業界団体からの出展があり、それぞれの団体の特徴を生かした内容であったため、多くの子どもたちに楽しく体験してもらうことができました。また、フェア全体やブースによっては、参加者がお持ち帰りできるものが用意されており、家に帰った後も触れて頂くことができました。

当会の出展内容においても、非常に長い待ち行列ができるなど、関心が高かったと思われます。「事前に練習しておいたので当日は沢山スーパーボールをすくうことができました。」といった声を頂くなど、子どもをはじめ、親子で楽しんで頂くことができました。玩具のショベルですが、楽しかった思い出が、建設業を身近に知って頂く良い機会になったと思われます。

7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案

想定以上に多くの来場者が来たため、子ども連れで長時間待つ状況になったため、スタッフの増員やより多くの玩具ショベルを用意するなど、運営体制の強化が必要と考えられます。

フェア全体としても、非常に多くの来場者が来られたため、会場が狭くなりました。より広い会場で開催し、また、待ち行列の整理等の工夫が必要と考えられます。また、当日強風によりテントが飛び、けが人が出る状況などがあったため、応急処置などの緊急対応の体制をよりしっかりとして行く必要があると考えられます。また、台風によりフェアが途中で中止となったため、台風などのシーズンを避ける、あるいは、風散養生等の対応が必要と考えられます。

8. その他

注1：提出資料は電子データとしてください。

注2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。

平成 30 年 10 月 6 日 「ひろしま建設フェア 2018」開催

場所：広島県庁正面駐車場

広島県と建設業団体主催による「ひろしま建設フェア 2018」に参加し、「おもちゃのショベルによるスーパーボールすくい」のキッズ体験ブースを出展しました。この日は残念ながら台風 25 号の接近に伴う強風の影響により、12:30 にフェアは終了となりましたが、当会ブースにもフェア開場直後から多くの方にご参加いただき、大盛況のうちに終わることが出来ました。



広島県と建設業団体 **建設フェアに4000人来場**
「仕事体験を通じ魅力伝える」

広島県と広島県建設工事業協会、広島県建設業協会、建設業労働組合連合会、建設業専門団体中国地区連合会など、主催者を代表して中野基昭の県庁正面駐車場にて、建設フェアの開催が7月の仕事体験を通じて、建設現場の見学や、遊具を通じた建設の仕事を知ってもらえる機会を設け、子どもたちに建設の仕事を知ってもらう機会を設けた。建設フェアは、建設現場の見学や遊具を通じた仕事体験を通じて、建設の仕事を知ってもらえる機会を設けた。建設フェアは、建設現場の見学や遊具を通じた仕事体験を通じて、建設の仕事を知ってもらえる機会を設けた。

テープカット
 テープカットの様子。関係者一同がテープを切る。

フェアのもよう
 フェア当日の様子。多くの子供と保護者が参加し、遊具や展示物を利用している。

建設フェアは、建設現場の見学や遊具を通じた仕事体験を通じて、建設の仕事を知ってもらえる機会を設けた。建設フェアは、建設現場の見学や遊具を通じた仕事体験を通じて、建設の仕事を知ってもらえる機会を設けた。建設フェアは、建設現場の見学や遊具を通じた仕事体験を通じて、建設の仕事を知ってもらえる機会を設けた。

平成30年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）取組実績

機関・団体等の名称

広島建設青年交流会

事業等の名称	子どもたちに絵本を贈る事業
<p>1. 実施時期 平成30年10月9日～11月中旬</p> <p>2. 実施場所 大竹市、廿日市市、大崎上島町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、尾道市、世羅町、神石高原町内の全小学校 80校</p> <p>3. 対象者（参加見込又は参加者数） 対象地域内の小学校全児童 約17,416人</p> <p>4. 共催・単独等の開催状況 （一社）広島建設工業協会、（公財）建設業福祉共済団、西日本建設業保証（株）、広島建設青年交流会による共催</p> <p>5. 事業等の内容 一昨年の広島市、昨年の福山市、三次市、庄原市に続き、上記の広島県内のその他地域の小学生の子どもを対象として、小学校に建設業に関する絵本を寄贈し、建設業界をもっと知ってもらい「知識を深めてもらう」、「建設業のイメージアップを図る」等の効果を期待し、将来的になりたい職業として選択してもらい、若手入職者をより多く確保することを目的としております。各小学校を訪問し、下の7冊の絵本を寄贈しました。また、絵本に加え、全児童を対象に建設学習帳（自由帳）を寄贈しました。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 土木の歴史絵本シリーズ5巻（瑞雲舎）<ul style="list-style-type: none">「暮らしを守り工事を行ったお坊さんたち」「川を治め水と戦った武将たち」「技術と情熱をつたえた外国の人たち」「土木技術の自立をきずいた指導者たち」「海外の建設工事に活躍した技術者たち」・ しごとば東京スカイツリー（ブロンズ新社）・ 図解絵本 工事現場（ポプラ社）・ 建設学習帳（自由帳）	

6. 期待される効果（実施結果：効果）

建設に関わる絵本を小学校に寄贈することで、多くの小学生に建設について興味を持ってもらうことができました。多くの小学校では新規の図書購入が削減されてきている中、絵本の寄贈を大変喜んで頂けました。各校を訪問し、校長、教頭に直接手渡しをすることで、将来を見据えて地道に建設業のすそ野を広げる活動をしていることを知って頂き、教育者の視点から建設業に対する認識を深めて頂くことができました。

7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案

この度、上記の広島県内の市町の小学校に絵本を配布する際、当会会員が手分けをして、各校を個別訪問しました。当会会員の多くは広島市内に拠点を構える会社が多いため、配布に際し各会員に手間と時間の負担を掛けました。今後、配布対象が広島県内のその他地域へ広がっていきますが、会員、並びに、会員企業の負担がより大きくなる懸念があります。

8. その他

注1：提出資料は電子データとしてください。

注2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。

平成 30 年 10 月 9 日～ 平成 30 年度事業 子供たちに絵本を贈る事業

場所：広島県内 4 市 5 町

平成 28 年度よりスタートした『子供たちに絵本を贈る事業』も、今年度で 3 年目となりました。今年度は、尾道市（24 校）、大竹市（4 校）、廿日市市（17 校）、安芸高田市（10 校）、安芸太田町（4 校）、北広島町（9 校）、大崎上島町（3 校）、世羅町（4 校）、神石高原町（5 校）の全 80 校、生徒数約 17,400 人を対象とし、絵本及び建設学習帳（自由帳）を当会会員が持参、寄贈させていただきました。今後、一人でも多くの子供たちに建設業に興味を持ってもらうべく、これからもこうした事業を継続していきたいと考えております。



世羅小学校（世羅町）



芸北小学校（北広島町）



木江小学校（大崎上島町）



大竹小学校（大竹市）



戸河内小学校（安芸太田町）



油木小学校（神石高原町）

建設業
交流
会
島
年
広
青

建設業の魅力伝え、入職者増へ

佐方小など80校に建設絵本

地元建設業の若手リーダーで組織する広島建設青年交流会（伏見光暁会長）による県内小学校への絵本贈呈事業が今月9日～11日にかけて開かれ、会員34人が分担任して

県内9市町の公立学校80校を訪問。建設業関連絵本560冊とミニパンフレットも兼ねた「建設学習帳」（自由帳）を手渡しで配った。

建設業の魅力を伝え、将来の入職者確保につなげようと広島県建設工業協会、建設業福祉共済団、西日本建設業保証の支援を受けて平成28年から実施しているもの。昨年ま



左から前川、尾久葉、伏見、大地、久保の各氏



建設業の魅力をPR（尾道市・三成小）

での2年間で延べ約260校を回り、約1800冊を配っていた。10日に廿日市市立佐方小学校を訪れ、尾久葉則子校長に面会した伏見会長（伏光組）、前川拓也副会長（栗本）、大地一義幹事長（山陽建設）、久保大樹会員（東洋安全施設）は、「まちを作り、守る」地元建設業の役割や絵本贈呈事業の趣旨を説明したのち、東京スカイツリーの工事現場を紹介する立体絵本や、歴史や偉人と土木技術の関わりを描いたものなど7種7冊を贈呈した。

尾久葉校長によれば、同小は7月豪雨でグラウンド側の斜面が崩れ、アクセス道路に流れ込むなどして被災したほか、周辺でフェンスや下水道の工事も行われていることから建設業が身近になっ

ており、「ものづくりに関心がある子はたくさんいるし、工事のようすに興味津津。いただいた絵本は学級文庫として返し、全児童が読めるようにしたい」と感謝。伏見会長は、「災害などもあって建設業が必要なり仕事であることはかなり認知されてきている。全校を回るのは大変だが、喜んでもらえることが励み。事業を通じてさらなるイメージアップにつながる良い良いと思う」と話していた。

なお、県内全公立小学校への配布を目指して始まった事業は、今回までの3年間で広島市、福山市、三次市など大半の地域への配布が完了した。来年度は呉市や東広島市などを回り、全校への配布を終える予定としている。

【平成30年10月16日 中建日報】

建設の仕事 絵本で知って

県内の業者団体 吉田小に7冊寄贈



伏見会長（右）から絵本と自由帳を受け取る児童代表

県内の建設業者でつくる広島建設青年交流会は、安芸高田市吉田町の吉田小を訪れ、工事現場の解説や土木の歴史を紹介した絵本7冊を同小に贈った。同小体育館であった

贈呈式には、同会の伏見光暁会長（44）たち4人が出席。児童約280人を前に、伏見会長は「町をつくり、町を守る建設の仕事を知ってほしい」と話した。2016年度から4カ年計画で県内の全市町の公立小学校へ絵本を贈る同会の慈善事業の一環。18年度は安芸高田市や北広島町など計9市町に絵本を贈るといふ。（山成耕太）

市長往来 ▲ 17日

〈19日の潮〉

広島港	満潮 5時41分	干潮 11時19分
呉港	満潮 5時42分	干潮 11時56分

【平成30年10月18日 中国新聞（県北版）】

(別添様式1)

平成30年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）取組実績

機関・団体等の名称

広島建設青年交流会

事業等の名称	広島工業大学との交流事業
1. 実施時期	平成30年12月13日
2. 実施場所	国土交通省 中国地方整備局 中国技術事務所（現場実習） 広島工業大学（意見交換会）
3. 対象者（参加見込又は参加者数）	広島工業大学 環境土木工学科3年生 約90人 国道交通省中国地方整備局 数人 広島県 数人 広島建設青年交流会 約30人
4. 共催・単独等の開催状況	広島県建設工業協会、広島建設青年交流会による共催
5. 事業等の内容	第1部 国土交通省中国地方整備局中国技術事務所にて、鉄筋組立体験、実橋教材モデルだ音点検実習、函渠モデル見学、災害対策用機械見学（遠隔操作バックホウ、照明車、対策本部車）を実施しました。 第2部 国道交通省中国地方整備局、広島県土木建築局による土木行政、社会基盤整備について説明しました。その後、学生は5人程の小グループに分かれ、それぞれのグループに国土交通省、広島県、広島建設青年交流会の会員、若手技術者も加わり、各グループで意見交換を行いました。
6. 期待される効果（実施結果：効果）	中国技術事務所で、普段目にするののない遠隔操作バックホウや照明車などの災害対策用機械を見たり、実橋教材モデルを用い打音点検実習をしたり、また、実際に鉄筋組立て体験を行うことで、建設現場をより身近に感じてもらい、また、非常に興味を持ってもらうことができました。また、行政や会員企業から比較的年齢の近い若手技術者が参加することで、学生に近い目線で対話をすることができました。

行政、民間建設業者それぞれの立場の意見を聞くことができ、建設産業の魅力をより総合的に伝えることができました。今年度は、小グループで意見交換を行うことで、より身近な意見交換ができました。また、若手女性技術者も参加し、女性だけのグループを作り、意見交換を行ったところ、普段聞かれないことを聞くことができたとのコメントが学生からありました。

7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案

今回初めて中国技術事務所で現場実習を行いました。大きく3班に分かれてローテーション方式で、それぞれ見学や実習を実施しました。しかし、各班での時間配分がバラバラになり、見学や実習を行う担当者により、割当て時間を超過するなど、スタッフ側のタイムスケジュールの意思統一を図る必要があります。

8. その他

注1：提出資料は電子データとしてください。

注2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。

平成30年12月13日 広島工業大学との交流事業 開催
【第1部】現場実習（鉄筋組立・橋梁点検・災害対策用機械操作）

場所：国土交通省 中国地方整備局 中国技術事務所

今年度の広島工業大学との交流事業では、第1部として国土交通省 中国地方整備局様のご協力の下、中国技術事務所にて現場実習を行いました。鉄筋組立体験や、実物モデルを用いた橋梁の安全性を確認する打音点検、西日本豪雨災害などで活躍した災害対策用機械（照明者など）の操作を体験してもらいました。



中国技術事務所
堀江所長よりご挨拶とご説明



災害対策用機械（照明者）の操作体験



橋梁の打音点検体験とボックスカルバート施工における施工不良事例のモデル説明



鉄筋組立体験



鉄筋組立体験

【第2部】学生と企業・行政による意見交換会

場所：広島工業大学

第2部では広島工業大学へ戻り、国土交通省 中国地方整備局 企画部企画課様及び、広島県 土木建築局 技術企画課様よりご講演いただき、続いて学生との意見交換会を行いました。学生との意見交換会は、学生5～6名ずつの班を作っただき、その班に1～2名の当会会員や行政の方を加えて実施しました。企業説明会等では中々聞くことのできない【生の声】を、和気藹々とした空気の中で交わす事が出来ました。その後各班よりどういった話が出たのか発表していただき、班毎の様々な意見を共有しました。



国土交通省 中国地方整備局様のご講演



広島県 土木建築局様のご講演



学生との意見交換会 各テーブルでは給与や休暇などの話から趣味の話まで、色々な話を聞かれています



学生との意見交換会 テーブルのまとめ発表時も、テーブル毎の様々な意見を興味深く聞かれています

広工大と交流イベント

地元志望学生の受け皿に

広島建設青年交流会



建設業への理解を高め、地元建設業界への就職を促すために毎年開かれてくる「広島建設青年交流会（伏見光晴会長）」らと広島工業大学との交流イベントが13日に開かれ、現地実習やミーティングを通して「街をつくり、守る」建設業の魅力を伝達。待遇や職場の人間関係など、会社説明会で聞けな



意見交換のもよう



鉄筋組立体験

い建設業界の本音についても意見交換した。イベントには、進路選択を間近に控える環境土木工学科の3年生約90人に加え、業界からは青年交流会の会員企業と国、県の技術者ら約40人が参加した。

交流会の親会でもある（一社）広島県建設工業協会の榎山典英会長（岡治組）はあいさつで、働き方改革やICT活用による生産性向上など、建設業の魅力向上に向けた取り組みを強調。「建設業は地域のために仕事をし、喜ばれ、感謝され、やりがいのある素晴らしい職業。ぜひ希望を持って入ってほしいし、できれば地域貢献が実感できる地元建設業を志望してほしい」と熱く呼びかけた。

大学内で開かれた意見交換及びディスカッションでは、学生らを十数班に分けて各班に数人ずつ会員らを配置し、グループディスカッション形式で質問。建設業のやりがいについては、「職人さんは基本的にいい人。しっかり話せば色んな人が助けてくれる」「地元で働き、役に立てたと実感できる」などの意見が上がったほか、「学生と社会人の違い」では、「バイトと比べ、常に責任感を求められる」「約束を守り、嘘をつかない。学生も社会人も基本は同じ」と助言。

「学生のうちにやっておくこと」では、「勉強も最低限はいるが、しっかり遊ぶこと」「知り合いや彼女を作ること」などと、「元気があれば何とかなる」とコミュニケーションの重要性も説いた。

このほか、中国技術事務所で行われた現場実習では、会員の指導のもと鉄筋の組立や、実物モデルを用いた橋梁の打点点検、鉄筋かぶり不足等の施工不良などを体験。同事務所には配備され、熊本地震や西日本豪雨災害でも活躍した分解組立型バックホウ、照明車などの災害対策用機械の操作体験なども開かれた。

交流会と広工大との交流イベントは、今年で8年目となる。伏見会長（伏光組）は終了後、「今回は初めて現場見学以外を実習に取り入れてみたが、毎年面白い試みができている。継続することで地元企業の採用に繋がっていくれば」とコメント。同年度の卒業生のおよそ半数以上が大手を志望するなど、地元企業にとって厳しい現状には、「地元で働きたい子も少なからずいる。働き方改革を進め、そういう子の受け皿にならないといけない」と話していた。

(別添様式2)

平成31年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）新たな取組予定

機関・団体等の名称

広島建設青年交流会

事業等の名称（仮称）	<ul style="list-style-type: none">・広島県内建設業界を知ってもらう説明会・ひろしま建設フェア・子どもたちに絵本を贈る事業・広島工業大学との交流事業
<p>1. 実施時期（予定） 前年同様に実施見込み。</p> <p>2. 実施場所（予定） 前年同様に実施見込み。 「子どもたちに絵本を贈る事業」については、配布エリアを広島県内の未配布地域にして実施する見込み。詳細は未定。</p> <p>3. 対象者（参加見込） 詳細未定。</p> <p>4. 共催・単独等の開催方法（予定） 詳細未定。</p> <p>5. 事業等の内容（予定） 前年同様に実施見込み。</p> <p>6. その他</p>	

注1：提出資料は電子データとしてください。

注2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。